

対象施設	認定こども園さくら保育園
実施日時	①令和5年4月26日(水) 午前10時00分～ 午後12時15分 (園訪問) ②令和5年5月23日(火) 午前10時00分～ 午後1時45分 (実地指導)
実施者	①重尾 知美 久保 艶子 ②吉田 祐一 宮木 恒輔 大西 沙季

①園訪問(4月26日)

令和4年度末をもって藤井園長が退職し、それまで理事長だった佐邊氏が園長と理事長を兼務する体制となった。今回の園訪問は、新しい園運営体制となり1カ月程度経過した中で、まずは、安定した保育が提供できているかを保育教諭の視点から確認した。

1. 保育見学

0歳児

朝の遊びの時間に見学。ゆったりとした雰囲気の中、体を動かす玩具等で遊ぶ環境を用意している。

1歳児

新入園児11名を迎え、新学年がスタートした。椅子に座っての朝の会では、手遊び等を取り入れながら進行している。

外国籍児童の対応面では、文化・風習面から個別対応を要とする場面が多い(本日欠席)。欠席が多いためまだ集団生活に慣れないが、園長が丁寧に保護者要望等にも保育内容を説明し、対応している。

2歳児

朝の会を見学。発達面で気になる児童について、来年度サポート申請することを視野に入れて対応している。

3歳児

椅子取りゲームを見学。ゲームの進行の方法について、園長は「待つ時間が長いと活動に飽きてくるので、保育の工夫が必要」と捉えている。

4歳児

粘土遊びを見学。支援を必要とする児童が複数在籍しており、3人担任体制で対応している。

5歳児

ピアノの練習を見学。4歳児の時点で積み木を2種類個人持ちにして、卒園時にプレゼントとして渡している。感性を育てるために各保育室によい音響機器を設置している。(園長談)

2. 園からの聞き取り

新体制での園運営について

佐邊園長：令和4年度末で退職した職員の補填をしたが、採用面接の際には、園の保育方針や条件等を明示して理解してもらったうえで採用しているので、不満は今のところない。職員一人ひとりが自主的に考え、行動できるようになってほしいし、そのためにしっかりと声を聞くようにしているので、職員体制が変わっても大丈夫と考えている。

鳥飼主幹：前年度までは、職員会議は、職員から意見を言いにくい雰囲気があったりもあったが、意見を言いやすくなった。

佐邊園長：今年から、正職・パート関係なく全職員が係を担当することにして、アイデアを反映できるように努めている。

保育内容について

佐邊園長：子どもが興味をもち、自らやってみたいと思うような教材や環境を用意することで、興味関心を広げ、知識欲の礎を作りたい。そのために、有効だと自分が思う玩具（雲梯・吊り輪・総合遊具・乗り物・積み木等）を購入した。決して強要することなく、「触ってみたい」「知りたい」と思う気持ちを大切にしたい。保護者受けする英語教室や見栄えを重視した行事等は子どものためにならないので、やるつもりはない。

給食は、おいしいと思えるもの、食べたいと思えるものを提供してくれる業者に変更した。自分が選んだ米と油を使って食事提供してくれている。

鳥飼主幹：職員は本園の保育内容について納得の上、入職しているので、抵抗感はない。

3. 感想

理事長が園長を兼務する形で、園の体制は変わったものの、保育は大きく変わった印象はなく、以前通り温かい雰囲気子どもを受け入れている。市は、保護者を不安にさせない、安定した園運営ができているか確認に来た旨を伝えると、「少なくとも自分（佐邊園長）が園長でいる方が、よい運営になっている」と自負されているとのこと。園と法人それぞれのガバナンスが機能し、健全な園運営が持続するよう、市から継続した指導が必要であると感じた。

②実地指導（5月23日）

子ども子育て支援法に基づく確認監査を、定期的実施する目的で実施した。

1. 口頭で助言した事項

- ・保育室に設置されているロッカーの扉が簡易に開くものであったため、ロックをかける等、危険防止に努めていただくよう伝えた。
- ・保育者が児童の背後から急に抱いたり腕を引いたりして移動させる姿が見られた。児童の気持ちを尊重した保育について園内で確認し、保育に反映させるよう助言した。

2. 感想

- ・園内には季節を身近に感じられる製作物があったり、観察しやすい場所に動植物が飼育されていたりと児童が興味・関心を持てるような環境であった。
- ・保育者の児童への声かけや接し方が心地よく、過ごしやすい環境に努められていた。
- ・乳児クラスには、手作りおもちゃが多く準備されており、発達に応じた環境づくりがされていると感じた。